

東京都立日野高等学校 60周年記念式典式辞

本校の校樹であるセンペルセコイアも、常緑を輝かせている今日、東京都立日野高等学校60周年記念式典を挙行するに当たり、地域の皆さま、同窓会関係の皆さま、歴代の校長先生、近隣の都立学校・中学校の校長先生、副校長先生をはじめとする、多数の御来賓の御出席を賜り、高い所からではございますが、学校を代表いたしまして、厚くお礼申し上げます。

このよき日を迎えることができましたのも、本校の教育の充実・発展のために、多大な御理解、御支援をいただきました地域の皆様や保護者の皆様、教育関係者の皆様、さらには、歴代の校長先生、旧職員、同窓生の皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

さて、日野高等学校の歴史を少し紐解いていきましょう。アジアで初めてとなるオリンピックが開催された、昭和39年に、日野市、当時の多摩町、稻城町から、都立高等学校を日野市に誘致しようという、熱い思いが地域から沸き上がり、昭和41年1月1日に本校は設置されました。

1月10日には、日野市農業協同組合事務所の倉庫の二階をお借りして仮事務所を開設しました。開校まで三ヶ月と短い期間でしたが、日野市に設置される初めての都立高校として、一月末には、明るい校風と、進んで物事を成す気質を養うことを願い、斬新なデザインのグレーのブレザーの制服、そして二月には、教育方針として「自主精神の養成、知性の向上、個性の伸長、責任感と協調性の体得、社会的使命の自覚」を掲げ、これに合わせた生徒心得、日野高生が、すくすくと成長して欲しいという願いを込めた、校樹センペル、セコイアが決まりました。当時、多くの都立高校では、自由な雰囲気がありましたが、生徒心得は、細かく決められ、規律の厳しいものがありました。

4月10日、東京都立立川高等学校をお借りして、第1回入学式が挙行されました。校舎は、日野市三沢のプレハブの仮設校舎でのスタートとなり、昭和42年4月に、本校舎、仮引継ぎが行われ、現在の日野市石田、この地に移転しました。第一期工事は、11月1日に竣工し、同日に開校記念式典が挙行され、その後、昭和43年3月に校舎増築工事、44年3月に体育館、45年4月にプールが完成、開校から4年を経てやっと施設が整いました。

この間、41年の9月に、第一期生、全員が応募した中から選ばれた校章が。42年の9月に校歌が制定され、10月の日野高祭で披露されたとのことです。

開校当時、仮設校舎でしたが、活発に教育活動が展開され、5月には部活動発足、富士五湖方面への遠足、7月には球技大会、10月には文化祭、体育祭、11月にはマラソン大会が実施され、初代、松吉利夫校長先生の「都立高校の良い所を日野に結集しよう」を合言葉に、教職員、生徒、ともに一丸となった、学校づくりの取り組みは、60年経った今も脈々と受け継がれています。

この10年あまりは、校舎の大規模改築に多くの時間を費やしました。約10年前に計画が始まり、仮校舎は令和2年2月から着工し、夏休みに移転。旧校舎は令和2年7月まで使用されました。その後8月に仮校舎に移り、仮校舎での生活は令和2年8月から令和5年7月と3年の月日を要しました。この間、旧校舎は令和2年11月から令和3年4月にかけて取り壊しが行われ、新校舎の建設が令和3年5月から始まり、完成は令和5年7月と2年2か月を要しました。その後仮校舎は解体され、グランドの建設工事に移り、令和7年7月にグランドも引き渡しが完了いたしました。

一方で、大規模改築中にも東京都教育委員会から Sport-Science-Promotion-Club(SSPC)の指定を男子バスケットボール部、硬式野球部で受け、総合競技力の向上を図り、その他、生成AI研究校、情報活用能力育成研究校、教育データ利活用実証研究校、文部科学省のDXハイスクールの指定を受け、今年度は東京都教育委員会より「Tokyo-IBL ハイスクール事業」(TIPS-Type 3)および「デジタルを活用したこれからの学び」のパイロット校の指定を受け、「デジタルとリアルの融合」を推進し、東京都全体の教育をけん引する役割を果たしてきています。

この間、部活動においても、様々な場面で生徒が活躍しています。特に美術部が八年連続全国大会出場へ、また文芸部、ダンス部も全国大会への出場を果たしました。そして、今年は陸上競技部が関東大会出場を果たし、この度、硬式野球部が秋季大会において先日ベスト8入りし、この後ベスト4をかけて試合に臨みます。これは、日野高生が積み重ねた努力、そして御支援、御協力いただいた保護者の皆様、地域の皆様、教職員の指導以外の何物でもありません。

また。この激動の期間も、正門付近のセンペル、セコイアは立ち続け、日野高生を見守り続けていました。

さて、生徒の皆さん。正門の入り口付近の先に三本の大きな木が立っているのは知っています。あれが校樹であるセンペル、セコイアです。

この木は、常緑樹であり、1年中葉を落とさず、鮮やかな緑を保ちます。葉っぱはスギのような立体的な葉を、互い違いにつけ、形は線形です。樹皮は厚く、赤褐色で、野性的な印象を与えます。この木は、世界で最も高い木の一つとして知られ、その高さは100メートルを超えることもあります。長命の木もあります。

この木になぞらえて。1年中緑が保たれることは、日野高生皆さんのがんばりを表しています。その立体的で葉っぱは、何にでも興味・関心を抱き、自身の幅を空間的に広げていく姿を。線形である葉の形は、純情でまっすぐな性格を表しています。樹皮の荒々しさは、君たちの心の奥にある逆境に負けない情熱や精神を表し、世界に類を見ないこの木の高さは、

この地で学んだことを基盤に、社会に出ても自身をどこまでも成長させていく気概を表してると考えます。

一方で、このセンペル、セコイアはこれまで 60 年間、この地に集う約 2 万人（1935 2 名）のすべての生徒を見守ってきてくれています。本校出身のあの有名人が高校生のときも、この木は見つめていたに違いありません。そしてこの地でこれからも、いつまでも、永遠に日野高生を見つめていくでしょう。

生徒の皆さん。あの 3 本のうち 1 本は本校の「盛んな部活動」を、もう 1 本は「盛り上がる学校行事」を、3 本目はここで「より高いレベルへの進学実績の柱」と見立て、どれも確かな根っこを持ち、荒々しくまっすぐに、風雪に耐え、強く、高くしていこうじゃありませんか。

さあ始めていきましょう！日野高新時代です！ 皆さん一人一人が自分の可能性を最大限開放し、仲間とともに「チーム日野」として一丸となって、三本の柱を高めあっていきましょう。日野高新時代の幕開けがここから始まります。一人一人が「チーム日野」の未来を、新たな日野高新時代を作っていくその当事者です。

本校の校歌の三番の歌詞に「かぎりない愛のふるさと」という歌詞があります。これまでの 60 年間に加え、この歌詞のように、終わりのない、君たちにとっていつまでも続く、愛する故郷にしていってほしいと思います。

そして今日この日が、いずれ来るであろう 100 周年の時に、この話を聞いている君たちの誰かがこの地に来校して、母校の思い出として 40 年後の生徒に伝えていただきたい。令和 7 年 11 月 1 日。あの日が日野高新時代の発展の 1 つの分岐点となって、みんなと成長して今の自分があり、生徒たちが一丸となって「部活動」も「学校行事」も「進路実績」もすべてにおいて盛り上げ、3 本のセンペル、セコイアのごとく高い木に成長してきたと。40 年後のこの地に集う、日野高校の生徒に是非、「かぎりない愛のふるさと」であることを伝えていただきたいと思います。

開校当時の地域の熱い思い。日野市にできた初めての都立高校である原点を今新たにし、日野高新時代を、生徒の皆さんと、教職員と、保護者の皆様と力を合わせて作って参りまたいと思います。

結びに、本日この式典に御列席賜わりました全ての方々に、今後とも、本校の教育活動への御理解と御協力、そして本校のさらなる発展のために、御支援を賜りますようお願い申し上げ、式辞といたします。

令和 7 年 11 月 1 日

第 19 代 東京都立日野高等学校長 米山 琢児